

研究課題名：	薬剤溶出性バルーンとエキシマレーザーを用いた経皮的冠動脈形成術が冠動脈内ステント再狭窄病変に対して有効か検討する。
研究機関名 所属（診療科等）：	研究事務局 さいたま赤十字病院 循環器内科 松田 隼治 総合研究代表者 さいたま赤十字病院 循環器内科 松田 隼治
研究責任者及び職名：	さいたま赤十字病院 循環器内科 松田 隼治
研究期間：	2014年 10月 1日 ～ 2019年 3月 31日
研究の目的と意義：	近年では冠動脈ステント内再狭窄病変に対する治療として、薬剤溶出性バルーンが多く使われるようになってきている。一方で冠動脈ステント内再狭窄病変に対してエキシマレーザーを用いた冠動脈形成術の治療の有効性もいくつか報告がある。しかし薬剤溶出性バルーン単独の治療に対して、エキシマレーザーによるレーザー焼灼を加えて薬剤溶出性バルーンを用いた冠動脈形成術（PCI）がより有効であるかどうかはわかっていない。本研究では冠動脈ステント内再狭窄病変に対して薬剤溶出性バルーンを用いた治療法に、エキシマレーザーによるレーザー焼灼を加えることで追加効果があるかどうかを検討する。
研究内容：	当院単施設で待機的もしくは緊急で冠動脈ステント内再狭窄病変に対して薬剤溶出性バルーンを用いた経皮的冠動脈形成（PCI）を施行した患者様を対象とする。PCI後の悪い臨床転帰と病変部の再々狭窄の頻度を比較するために、エキシマレーザーによるレーザー焼灼を行った患者様とそうでない患者の基本的な特性、PCI所見を後ろ向きに電子カルテから情報を収集する。対象患者様より取得した上記診療情報を用いる、介入・侵襲を伴わない後ろ向き観察研究。
個人情報の取り扱い	研究実施に係る情報を取り扱う際には予め患者様の個人情報とは無関係な番号を付して情報を管理する。患者様の個人情報が院外へ漏れないように十分配慮する。
問い合わせ先： （拒否等の受付窓口）	【研究担当者】 所属：さいたま赤十字病院 循環器内科 氏名：松田 隼治 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 電話：048-852-1111